



八千代市郷土歴史研究会
会長 村田一男
事務局 八千代市勝田台3-24-10 牧野方

お知らせ

16年度八千代市民文化祭参加行事
「郷土史展」は
盛況のうちに終了しました

とき：11月20日(土)午後1時～5時
21日(日)午前9時～午後4時
ところ：勝田台文化プラザ 2階展示室
テーマ「旧高津村のすがたと人々」

参加者数：延べ216人

20日 = お客様88名、会員27名

21日 = お客様78名、会員23人

「史談八千代」発売数 = 53冊



展示内容

- 1 旧高津村の世界へようこそ
- 2 地図で見る高津村の移りかわり
- 3 高津の屋号マップ
- 4 古文書に現れる屋号
- 5 石造物に刻まれた屋号
- 6 石造物全一覧表
- 7 習志野原の演習場内の馬頭塚調査
- 8 ムラ境を祀る：辻切りと咳神様
- 9 高津比咩神社と晦日ごもり
- 10 間宮氏と高秀霊神
- 11 半兵衛さんの算額
- 12 探訪：高津川
- 13 会の活動記録とスナップ写真

・パネル：本会の紹介・郷土史展ポスター(大)
高津地区空撮写真

・地図類：千葉県全図・市内全域図・昭和6
年測量図(大和田・大久保)・フランス式色彩
図・房総三國図

2月13日(日) 学習会

午後1時～ 八千代市立郷土博物館にて
次年度調査研究課題検討など

3月6日(日) 拡大役員会

午後1時～ 八千代市立郷土博物館にて
役員のほかどなたでもご参加ください

3月20日(日) 中川船番所資料館見学会 京成八幡駅改札口 午後1時集合

江東区の中川船番所資料館(都営新宿線東大
島駅下車徒歩10分)を訪ね、発掘調査による番
所跡、江戸をめぐる水運の歴史を学習します。

平成17年度 定期総会と会員発表会のお知らせ

4月10日(日)
定期総会 午前10時～12時
八千代市立郷土博物館にて

会員の皆様には、この通信記事をもって総
会のお知らせといたしますので、ご了承の上、
ご参加のほどよろしくお願ひいたします。

なお、当日午後は同所にて、会員による研
究発表講演を行います。

会員研究発表会 午後1時30分～4時

一般の方もご来場いただき、会員の研究成果
をわかりやすく発表していただく場です。

発表希望の方は、3月6日の役員会で演題な
どの調整をいたしますので、お申し出下さい。
郷土史展でのテーマをより深めた内容のほ
か、日頃の個人研究、史跡紹介なども歓迎し
ます。

初めての試みですが、充実した研究内容の発
表会となるようにしたいと思います。

12月19日(日) 見学会
村上駅周辺の歴史散歩
藤 由美

ここ数年、八千代市の中でも区画整理により大きく歴史的景観が変わりつつある村上駅周辺。その現状をぜひとも皆で見て記録しようと、12月例会の19日午後1時、村上駅改札口に会員外のメンバーを含む25名が参加し、その踏査を行いました。

案内役は村田会長。延享3年(1746)の「村上村明細差上帳」の抜粋やカラフルな辺田前土地区画整理事業の市街化予想図などを添付した資料を参考に、昔の村の様子と計画中の街づくりを見比べながら、開発の中で何を記録し、何を次世代に残すべきかを考えようという企画です。ちょうどその2日前の12月17日、歴史的景観を守る「景観法」が施行され、「八千代の守るべき景観とは何か」を問う歴史散歩になりました。

1. 「起木の弁天」

冬至の頃としては小春日和の中、まずはフルルガーデン向こう側の国道16号線沿いの「起木の弁天」へ。強風で倒れた大木が一夜にして起き上がったという弁財天の霊験を伝える辺田前厳島神社ですが、先日の大風で祠が飛ばされて土台だけになっていて、現代では祠の一夜にしての復興は難しいようです。



2. 辺田前公民館(八坂神社・道標・石仏)

「起木の弁天」から東葉高速鉄道の北へ行き、辺田前公民館へ。公民館の前の角には八坂神社と昭和8年青年団が建てた角

型の道標(『八千代の道しるべ』道標No.D03)があり、ここは佐倉から先崎・井野方面から村上橋を経て、西は萱田・吉橋へ、また南へは下市場から横戸方面へ抜ける辻でした。

現在その八坂神社の祠も道標も道路の拡幅のため、公民館の敷地内に遷されています。この公民館には、大師廻りの札所や、子安講の各時代の石仏もあり、ここは「村明細帳」に記された「蓮葉寺」とのことです。またこの北側の台地斜面を発掘調査した際に見つかった十九夜塔3基と地蔵石像も、この一角に移されていて、これらの石仏のあったところあたりも、「村明細帳」に名前だけ残っている廃寺であったと推測されます。

3. 浅間内遺跡調査現場

公民館から、農家の間の中郷へ通じる昔からの階段状の道を登って、辺田前土地区画整理事業の只中にある浅間内遺跡へ。「浅間内」の由来ともなる浅間神社も、八千代市指定文化財のイヌザクラの根元へと移動し、新川に臨む台地上の遺跡は全て記録保存で消滅します。その発掘調査を担当していた八千代市教育委員会の常松氏に発掘の終わったばかりの調査現場を案内してもらいました。



八千代市教育委員会による1994年の第1次から2004年11月まで発掘調査では、奈良時代から平安時代初頭の多くの集落跡のほか旧石器から縄文・弥生時代の遺構や、未確認だった古墳の墳丘も発見されています。

弥生時代の大きな住居跡では、炉跡や住居の構造などの解説に「初めて発掘現場を見学できて

感動した」という新入会員の声も聞かれ、機会に恵まれた貴重な体験となりました。

4. 遺跡に隣接した墓地

遺跡のすぐ左手は墓地、明治30年「名月や見通す先は森と月」という川嶋成哉の句を刻んだ川嶋忠兵衛家の墓石、「けんけさま」という咳神となった僧侶の墓石、また神職山本家の神道型式の墓地などを見学しました。

5. 神職山本家の屋敷と庭園

「村明細帳」にも「神主山本右近」として記されている山本礼典さんのお屋敷と庭園を拝見、玄関前の丹精込めて手入れされた松は、36畳分の広さのみごとな枝ぶりでした。



この後は、市立郷土博物館で休憩。午後3時半を過ぎ、冷えてきましたが、元気な21名はさらに勝田台まで歩きます。

6. 村上神明公園

国道16号線の横断歩道を渡り、ホームセンターの広い駐車場を抜けて村上神明公園へ。ここは村上の昔からの自然地形がよく保存されている団地内の公園で、鳥居から長い参道を行くと、奥には「村明細帳」に「神明宮」とある小さなお宮が変わらぬ姿でありました。

8. 根上神社古墳

ジョイフル本田の広い駐車場を突っ切り、店舗南側の庚申塔群を見て、根上神社へ。ここには、市内最大の前方後円墳、神社の名を冠した「根上神社古墳」があります。全長50m、後円部の直径35m高さ3.5mほどの大きさでその墳丘の中央部を削り、社殿を建てています。今回の区

画整理では唯一、現況保存として残った遺跡ですが、その遺跡の範囲は境内地内とされました。

「村明細帳」では「根神明神宮 長5尺横3尺」の社殿、そして「社地 南北22間東西13間」が境内地であったとのこと。周溝を含めた古墳全体の大きさはそれより広い範囲ですが、境内境界ぎりぎりまで区画整理で土取りされようとしています。

墳丘自体の形状はよく保存されていて、最近前方部の北側周溝が部分的に発掘調査された以外は未調査とのこと。謎を秘めたまま次世代へと伝えられる遺跡です。

神社の東南側に立つと、今は立ち木も切られ、村上駅北口開発の工事現場がよく見えます。

切り開かれた参道から下りて行くと、村上駅北口開発の工事現場に取り残された巨木が1本無残な切り株になっていました。

9.黒沢池から勝田台へ

夕闇がせまる中、さらに東葉高速線に沿って勝田台方向へと歩くと、線路がトンネルに入る手前にフェンスに囲まれた湿地があります。かつて黒沢池として、根上古墳下の広い水田を潤した水源で、「村明細帳」の「溜三ヶ所」のうちのひとつのため池であると思われる。水鳥が羽を休める池で、デーダラボッチが歩いた足の跡とか、人を呑むという黒い大蛇が釣上手の男に負けたなどの伝承も多い池でしたが、団地造成や鉄道工事などでその姿を変えてしまいました。高架下になったとはいえ、まだ自然の残るこの湿地。市民の憩いの公園として整備される日を期待しましょう。

すっかり日が沈む頃、勝田台に着き、この後、一年の締めくくりの忘年会となりました。

資料作成とご案内くださった村田会長、親子で参加し、発掘調査の解説をしてくださった八千代市教育委員会の常松さん、ありがとうございました。

1月9日
新春恒例七福神巡り
関和時男

平成17年1月9日午後1時。京成千住大橋駅改札口前に千住七福神巡りの会員(20名)、一般参加(12名)総員(32名)の方々が参集した。

村田会長と、案内者小菅さんの方々が参集した。

橋戸稲荷神社

大正6年の地図を見るとこのあたりから長円寺まで千住の東側は水田が続き神社の前は池と湿地である。

延長四年(926年)に創建。現在の本殿は延徳二年(1490年)に建立、扉を開くと左右に伊豆長八(いずちようはち)作の雌雄二匹の狐と稲穂の漆喰の彫刻が見られるとか。残念ながら今日は見る事が出来なかった。

大橋公園(矢立初めの句碑)

元禄2年(1625)芭蕉46才奥の細道への旅立ちを記念して建てられた。「春行くや 鳥啼魚の目に涙」矢立とは江戸時代の携帯筆記具。終着「大垣」での「蛤のふたみに別れ ゆく秋ぞ」と対称句。

千住大橋

江戸開府直後に架けられたと言われ、名実ともに「大橋」であった。それにより栄えた千住は、今も千住大橋の中央に「大橋」の橋名板がかかっている。

旧日光街道

矢立初めの芭蕉像は松尾芭蕉生誕360年記念事業として平成16年(2004)12月12日(日)に建てられた。今日の芭蕉像は梅の花を背にして立っていた。



氷川神社(弁財天)

石出掃部亮が千住の南に広がる湿地を開発して町を起し鎮守とし勧請した神社で元和2年の創立という。本殿前に「茅の輪」があり参詣者は左側を左回り、右側を右廻りして参拝する。



本殿の左側に関屋天満宮があり、かたわらの石柱碑に「梅詠神」と横書きに刻まれている。和読みでは「神詠梅」となりやや首をかしげる。

金蔵寺

境内左側の天保十一年(1840)角柱型無祿塔は天保八年の大飢饉により千住で餓死した飢饉供養塔である。この地での餓死者の数は八百二十八人で、三百二十一人を勝専寺に葬り、六十一人を慈眼寺に、七十六人を不動院に、三百七十人を当寺でそれぞれ葬ったことや飢饉の惨状が刻まれている。

本陣跡

日光街道を行き交う諸大名の宿泊場として本陣一、脇本陣一、旅籠五十五軒があったといわれる。

長円寺(布袋尊)

山門の右側に六地藏。布袋尊の後ろの額には千住絵馬が納められている。

宿場町通り

「絵馬や」「横山家」「かどや」見て通る。

安養院

山門前に三基の庚申塔。元禄十五年(1702)笠付型合掌六臂青面金剛、横に「奉送三尸之毒虫二世願満孕」の銘文がある。「三尸の毒を虫送り奉り二世のよろずの願をおわんぬ」とでも読むのか。三尸之虫を「毒虫」と言い得て妙。珍しい庚申塔である。

出口に「仲直し地蔵」がある。元禄十二年（1699）の地蔵は、石で叩くとかかんと音がすることから、「かかん地蔵」と呼ばれている。願い事すると叶えられるという。



本氷川神社（大黒天）

徳治2年（1307）に牛田の西光院の脇に創設された。千葉氏と縁の深い由緒ある神社。南足立郡誌にいう荒川神社。昭和45年新社殿を完成。境内には「春もやゝ 景色とゝのふ 月と梅」の芭蕉の句碑、千寿七福神の碑、ラジオ体操記念碑などがある。

勝専寺（毘沙門天）

三宮神山大鷲院。創建は文応元年（1260）で將軍家ご休憩所として赤門と葵紋の使用が認められた。大鷲院の名の如く江戸時代西の市が開かれ「中西」と言い、浅草の鷲神社を「下西」と言った。明治時代になり勝専寺の西の市が閉鎖され、浅草の「下西」鷲神社は東側に遊郭新吉原があり、その利も加わり最も有名な西の市として残った。

千住の起源の一つといわれる千手観音、縁日で有名な閻魔堂がある。

江戸千住の「時の鐘」として親しまれた鐘楼が素晴らしい。不動院（福祿寿）

右手に建つ大石塔は上野の山で敗走し、この千住で戦没した彰義隊士の供養塔とか。前号で紹介した彰義隊士の妻「花野の手紙」が脳裏をよぎる。



慈眼寺

山門の右側に地蔵が並ぶ中に二基の舟形地蔵立像は「庚申待供養塔」「奉納庚申待供養」とそれぞれ銘があり台座に三猿と庚申待が刻まれている庚申塔である。この裏側に宝暦五年（1755）の宝篋印塔があり正面台座に万人講中、右側面に八日講中8以下講中略す）女中、庚申、真言の各講中が刻まれている。

千住神社（恵比寿天）

起源は平安時代の延長四年（926）千崎稻荷として祀られる。元寇の役直前の弘安二年（1279）に氷川神社と合祀された。



千住宿が出来るまではニッ森といわれ、千住宿ができてからは西森さまと親しまれた。お稲荷さまなので赤鳥居がびっしりと並ぶ。

その一の鳥居の右に芭蕉の句碑「もの言えば 唇寒し 秋の風」がある。秋の字づくりが「火」偏に「禾」の異体字になっている。

旧日光街道

高札場跡等路上に点在する石碑を見る。

源長寺（寿老人）

最後に参詣したのがボケ防止のお寺。入るとすぐ右にボケ防止の神「寿老人」が我々を迎えてくれる。早速浄財金十円也を寄進し手をあわせる。

大坂冬の陣西軍の武將天野和泉墓、江戸の文人画家鯉院墓、三遊亭円朝が寄進した常夜燈、千住の漢学者で俳人の石垣路川の辞世句、等々千住の歴史を偲ぶものがあるとは知らず素通りする。心残りする。

午後4時京成千住大橋駅改札口に帰着し、会長の挨拶で解散。案内役の小菅さんご苦労さまでした。

TOPICS

今年もなごやかに
高津のハツカビシャ

1月20日、今年も高津比咩神社の「甲乙ム」の的に弓を射る「高津のハツカビシャ」が行われました。

特に今年は、八千代市の文化財に指定されたことから、大橋市長も参加して弓を引きました。

弓射の後のオトウケトリや、念仏講の謡う「オビシャの花見」など氏子の方々による伝統ある民俗行事を、興味深く見学する市民も多く、無事2005年の平安が祈願されました（蕨・記）



NEWS

2月26日（土）
NPOフォーラム in やちよ

時間：13：00～16：00

場所：八千代市福祉センター
（市役所隣）4階会議室

基調講演：加藤哲夫氏

「市民活動っておもしろい！」

交流：（事例発表と意見交換）

当会会長も発表します！

参加費：500円

新入会員紹介

斉藤正一（萱田町在住）

佐藤洋樹（高津在住）

田宮達夫（高津在住）

羽計一宏（八千代台南）

よろしく申し上げます

= 編集後記 =

景観の変貌が著しい村上駅周辺。ぜひその巡見をと提案し実現しましたが、惜しげもなく切られる樹木、削られる台地に心が痛む昨今です。By.ゆみ

QWR07752@nifty.ne.jp